

紙上で Museum on the newspaper 博物館

運ぶ。

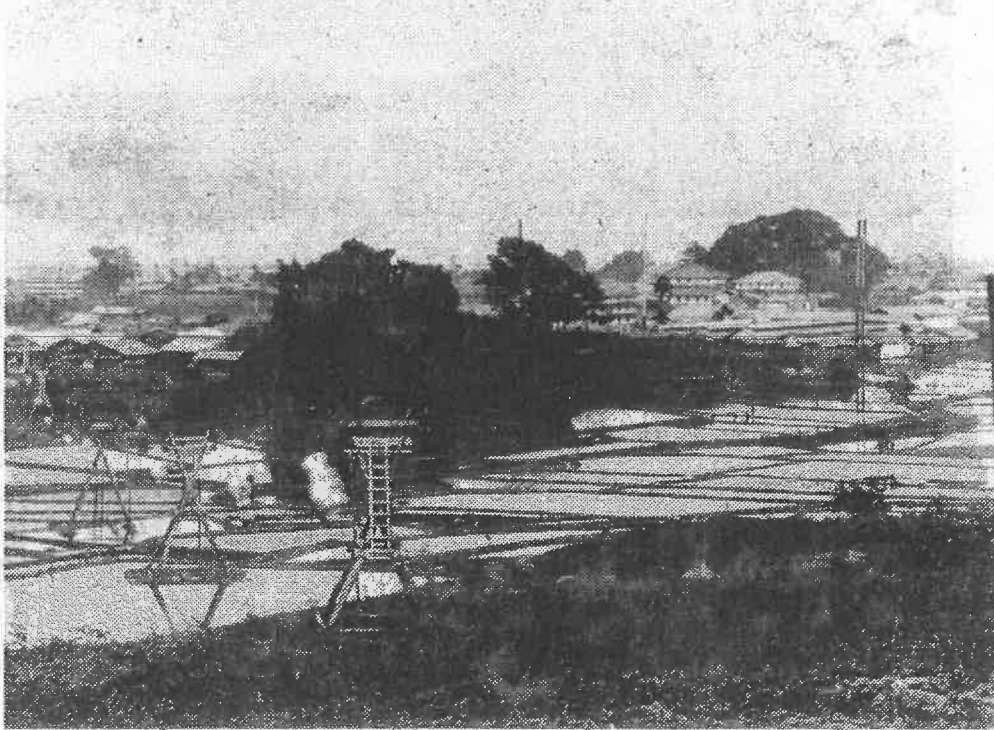
vol.6

—蚕糸業を支えたモノの流れ—

企画展から



ヨルコフカトオガヤ



▼
▼
▼
原材料を運ぶ
▲
▲
▲

は19日までに、送り盆の風物詩として親しまれる「岡谷花火まつり」を送る。岡谷市の諏訪湖畔で

う流し」もことしは見域をはじめ、県外から千灯以上の灯籠が寄せられる。下浜側湖畔

諏訪索道株式会社の 明治 時代 鉄索による物資輸送

製糸工場に必要な石炭は、明治中期、東筑摩郡産出の「西条炭」などが使われていました。塩嶺峠を馬車などで越えなければならず、大変なことでした。これを効率化するため1899(明治32)年、開明社の片倉兼太郎、尾澤金左衛門、林國蔵の3社長は諏訪索道株式会社を設立し、鉄索道を造ります。塩尻金子―平野村間下の8きに及ぶものでした。物をつり下げて運ぶロープウエーのようなもので、写真左側の木組みの橋間を点々と連なる白い塊が、今まさに鉄ロープにつり下げて運んでいるところです。写真右端に小さく見える人物と比べると、大きさが分かります。平野村間下での取扱量は1904(同37)年で着荷は約2729・2ト、発荷約231・4トで塩、油なども運ばれましたが、主に石炭輸送でした。索道は中央線開通まで、特に製糸家の原料物資輸送に大きな役割を果たしました。

新型コロナウ
心を二
負け
岡谷市中央
店「カフェ・
」と市内で

一人親家庭支援の 弁当配布第2弾

